

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0370101529
法人名	株式会社 三協医科器械
事業所名	グループホーム みんなのいえ
所在地	盛岡市向中野字向中野4番1号 (電話) 019-631-3741

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	1月8日

【情報提供票より】(19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	1月	1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人			
職員数	17 人	常勤	15 人,	非常勤	2 人,	常勤換算	9.8 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	1 名	要介護2	9 名			
要介護3	9 名	要介護4	3 名			
要介護5	- 名	要支援2	- 名			
年齢	平均	86.8 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内丸病院、友愛病院、中村北条皮膚科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは市街地化、宅地化が進む仙北町駅の南西部に立地し、近隣には盛岡スコレ高校、幼稚園、内科医院、コンビニエンスストアなどがある。閑静な中にも活気が感じられる環境である。このような環境にあって、特に道路を挟んで隣接する高校や幼稚園との交流を始め、地域社会へ溶け込む活動が印象的である。施設は、高齢者の身体機能への配慮が窺われる生活空間を形成している。また、二つのユニットは別棟だがデッキを挟んで隣接しており、総体として活気が感じられる構成である。運営面でも利用者の個性が尊重され、明るく落ち着いた雰囲気を感じる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善の課題は、段階的な研修の実施ということであった。現在職員の採用時研修から、年次ごとの段階的な研修について意識的な取り組みが行われ、研修の記録が個人ごとに整理されている。管理的な業務を担う職員を養成するために、自主研修を含めた体系的な研修のあり方について検討することが今後の課題と思われる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員が各項目に自分の意見を記入し、更にそれを会議で検討する方法で実施されており、全職員の評価が反映されている。また、自己評価のプロセスを通じてそれぞれの職員の中にもホームの運営への理解が進んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されている。ホームからは運営の状況や外部評価の内容が報告され、出席者からは、要望や提言がなされている。避難訓練や夏祭りなどの行事にあわせて開催され、それに対する意見交換なども行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族アンケートを年に1回実施している。家族会はないが、行事などで集まった時に家族の要望など、さまざまな話し合いがなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には入っている。地域の祭りや近くの高等学校や幼稚園の行事に参加している。また地域の防犯のために行われている子供見守り隊や子供会の資源ごみ回収への参加なども心がけている。特に災害対応などもあり、地域の人に利用者を理解してもらうよう努力している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「ともに和み、ともに生きる」である。職員が利用者に寄り添い、利用者の暮らしを支える姿勢が良く表現されている。更に理念の具体化として、基本方針は、家庭的な環境の維持、人格の尊重など6項目が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時の研修で理念が説明され、月に1度の運営会議などで管理者と職員が理念を確認している。カンファレンスや年に1度の管理者との職員面談でも理念が話し合われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、夏祭りなど地域の行事に協力している。高校や幼稚園の行事にも参加している。市街地という立地条件を生かして、地域活動への参加は積極的に行われている。広報紙や運営推進会議の議事録などがその様子をよく伝えている。	○	地域の防犯のための「子供見守り隊」への参加、子供会が行う資源ごみ回収への協力など、実施していることも含めて地域との交流のための努力を積極的に続けていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が参加して実施。個々の職員がそれぞれ記入した自己評価表を会議で討議して取り纏めている。また、前年の外部評価報告書を全員に配布しており、全員参加で、職員の施設運営への理解が深まっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、避難訓練や夏祭りなどの行事と合わせて開催し、これら行事の視察も行われている。会議も一方向からの報告のみにとどまることなく、各方面の参加者(メンバー)から様々な意見提言が出されている。内容は議事録にまとめられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との交流は、公式には運営推進会議と認定会議程度であるが、施設の運営管理者が月に1度くらい、自発的に市町村の担当者と情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	従来「生活のご様子」というメモで月に1回はホームでの暮らしぶりを家族に伝えてきたが、今は葉書形式のメモで生活の様子を伝えている。家族からは利用者の具体的な日々の生活がわかることから、好評を得ている。そのほか、ホームの行事等については、広報誌「みんなの家通信」で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを年に1回実施している。家族会は設置されていないが、家族の皆さんとは行事などで集まった時に話し合いを行っている。	○	家族会の設置については、様々な考え方があるが、その役割も含め設置について検討することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者の補充など職員の担当を変えるということはあるが、原則的には異動はさせない。異動する場合でも、利用者の混乱を防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、採用時の研修をはじめ、経験年数に応じた各種の研修を受講している。研修に関する要領、要項は制定していないが、個人ごとの研修受講歴は整理されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に所属。当ホームの職員が、協会のメンバーであるほかのグループホームへ出かけて視察、実習(研修)を行うなどの交換研修を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1～2週間ほどかけて、見学、説明、面談などを繰り返すなかで情報収集を行い、利用者の生活パターンを把握すると共に、利用者はもちろんのこと家族とも馴染みの関係を作り出している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の思いを汲み取り、個々人の個性を生かすことを大切にしている。食事の準備、洗濯、畑仕事、買い物など日常生活のほか、習字、編物、歌、卓球などレクリエーションなどにおいても職員は共に信頼できる関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者話し合い、本人の希望などを把握するように努めている。1人ずつの「出来る事、出来ない事ノート」が作られており、これをもとに個々人の対応についてサービス担当者会議などで話し合われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族の意向を踏まえて職員が話し合いを深め、外出が好きな人には外出の機会を多くするなど、利用者の思いを介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者ごとに担当者が決まっており、本人の状態、家族の要望などを取り入れながら「生活援助計画」、「24時間生活シート」などを踏まえて計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションからの毎週の訪問看護、主治医の月1度の来所など医療面での対応、車椅子での生活も可能なバリアフリーの施設構造など幅広い支援を行っている。家族の宿泊もできる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医で受診している。本人のこれまでの経緯を考慮し、希望する場合はホームが依頼している医師がかかりつけ医となる場合もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携指針を作成しており、看取りに対する用意はある。重度化した場合は家族や医師と話し合いをして、連携を図れるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	指示命令口調にならないように心がけることを会議などで確認しあっている。広報誌でもプライバシーへの配慮がなされている。「心得」なども掲示して注意を喚起している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的生活の流れはあるが、本人の希望を尊重し変化のある日々が送られている。行事や日々の生活でのレクリエーションなどにおいても個人の意向が活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や買い物、後片付けなどにも職員とともに利用者が参加しており、食事も和やかな雰囲気ですとられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、健康上、安全上の問題がない限り、基本的に利用者の望む時間に、望む形で利用することができるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	さまざまな経歴の人が居り、歌や音楽、編み物、習字、園芸など趣味、特技なども人それぞれであるから、それらの個性を尊重し、生活の中で活かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は外出を喜ぶので、気象状況などにもよるが外出は日常的に行っている。法人の車を利用して、花見や紅葉狩りなどに出かけるほか、回転寿司とかラーメンなどの外食にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しているが、昼間は鍵をかけていない。外出しそうな様子があれば職員と一緒に歩いて行くなどの注意を払っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回仙北消防署の協力を得て、消防訓練を行っている。消防計画も作ってある。災害対策は地域との連携が大切であり、運営推進会議でも議題に取り上げ地域関係者にも理解をお願いしている。	○	災害対策においては地域の人たちの支援、協力がきわめて重要である。既に種々努力され、災害時要援護者登録など実績もあるが、より一層地域社会へ溶け込む工夫を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌の日々の介護記録でこれらの事項が記録確認されている。月に1度、系列組織の栄養士がメニュー等について助言している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく清潔感があり、また季節の花などが飾られていて居心地がいいように配慮されている。テーブル、イス(ソファ)、畳にこたつなど自分が望む形態での休息や談話ができるように設えており、テレビ、レクリエーション等の対応もできている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの人たちとの写真や、使い慣れた整理筆筒など利用者の好みに合わせた居室となっている。		